

「パパがねているところ」

日下 一花 (くさか いちか) 3歳

本願寺中央幼稚園
(京都教区)

●表紙のこたば●

「パパがねているところ」と描き終えた一花さんは教えてくれました。これまで、大きな紙に協同で描いて遊ぶことはあったのですが、今回、はじめて個々に配った画用紙に描きました。入園間もない3歳児としては、3色それぞれの筆を持ち替えて描くものの、画面上で色が混じり合ったり、塗りたくったりすることを楽しむだけで十分なのですが、一花さんは、お父さんの姿をイメージしながら生き生きとした線で描いています。

この作品は2枚描いたうちの1枚で、もう1枚は「パパがお参りしているところ」だそうです。「二花さんにとってお父さんの存在がとてもしも大きいのだな」と先生は思ったそうです。この時期は、まだまだ色に無頓着な時期で、固有色にはこだわらず、色を使うことそのものを楽しみますが、赤、青、黄の絵の具をしっかりと使い分けて描いています。描いている時、一花さんの目には、お父さんの姿がしっかり見えていたのでしょう。



おおはし いさお
大橋 功

岡山大学大学院
教育学研究科